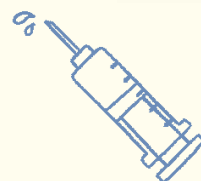


やるね
👍
板橋



つなぐ×集う×最先端へ

つなぐ × 集う × 最先端へ

光学・精密機器産業により培われた技術力

いざという時にも安心な医療機関の充実

魅力ある商店街・個店によるにぎわい

『やるね板橋』では、「産業」と「生活」が共存・調和するこのまちを牽引し
新しい明日(価値)を生み出している企業にインタビュー

知られざる企業ストーリーや世界に誇る「板橋ブランド」の魅力に迫ります

国史跡「陸軍板橋火薬製造所跡」の 昔と今、そして未来 一工都一 板橋の原点	03
---	----

光学	07
株式会社トプコン	08
日本特殊光学樹脂株式会社	09
株式会社ルケオ	10

特集記事

「絵本のまち板橋」から世界へ 絵本作家・三浦太郎の挑戦	11
--------------------------------	----

絵本	14
大村製本株式会社	15
株式会社清美堂	16
恵友印刷株式会社	17

DX・GX	18
株式会社ロビット	19
株式会社クレアビジョン	20

印刷	21
株式会社技光堂	22
株式会社オフセット岩村	23

100年企業	24
菊池食品工業株式会社	25
関東混合機工業株式会社	26
株式会社ハイキャスト	27

WEB版はこちら

やるね板橋



スタートアップ 28

株式会社ソラリス	29
マーベルオートサービス株式会社	30
クロスメッド株式会社	31

環境 32

株式会社太陽油化	33
大和合金株式会社	34

医療 35

イワツキ株式会社	36
株式会社TOK	37

防災・安全 38

株式会社湖池屋	39
理研計器株式会社	40
株式会社志村製函所	41

暮らし 42

株式会社タニタ	43
株式会社マルジュ	44
エコール・クリオロ株式会社	45
うつぼや池田食品株式会社	46

国史跡「陸軍板橋火薬製造所跡」の 昔と今、そして未来

—工都— 板橋の原点

板橋の歴史・文化・産業を体感し、
多様な人々が憩い、語らう史跡公園

—工都—、戦前から工業や科学研究が盛んな板橋区は、そんなふうにも呼ばれていました。そんな工都の原点となった史跡が板橋区加賀に残っています。国史跡「陸軍板橋火薬製造所跡」は加賀公園、旧野口研究所、旧理化学研究所の3地区からなり、板橋区史跡公園（仮称）として整備される予定です。ここでは旧理化学研究所の遺構にクローズアップします。



左：現在の旧理化学研究所 1 号館
下：昭和 24 年撮影（理化学研究所蔵）



日本の近代化へ貢献 国史跡「陸軍板橋火薬製造所跡」

板橋区加賀は、江戸時代、21 万坪に及ぶ加賀藩前田家の下屋敷が広がっていた地域です。1876 年、明治新政府はこの跡地を利用して、日本初の官営火薬工場「陸軍板橋火薬製造所」を設立しました。終戦まで火薬の製造と研究の中心地として、稼働していきます。終戦によって稼働終了した板橋火薬製造所、その 18 万坪の跡地は GHQ が管理し、希望する民間の企業、学校、研究機関に貸し出すかたちで戦後の社会がはじまりました。野口研究所と理化学研究所はその団体のひとつ。1971 年にできた加賀公園も加えた約 1 万 2000㎡が、これからできる史跡公園の舞台です。

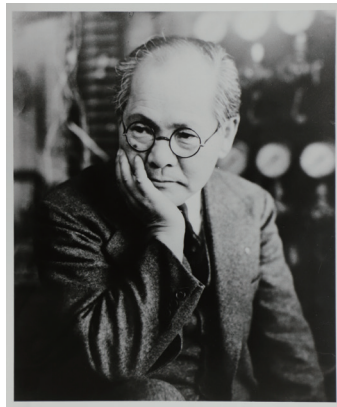


板橋火薬製造所から理化学研究所へ。 宇宙線研究はここから始まった

仁科芳雄は「日本の原子核物理学の父」と呼ばれる物理学者です。現在の岡山県里庄町に生まれた彼は、東大を卒業後にヨーロッパへ留学して最新の量子力学

を学び、帰国後は理研の主任研究員になりました。仁科は理論、加速器、宇宙線を研究しながら、湯川秀樹や朝永振一郎ら物理学者を育てました。戦後宇宙線研究を推し進めた優秀な科学者たちの多くも、仁科に学んでいます。戦後は理研の所長となり、GHQ と折衝して旧板橋火薬製造所の跡地に宇宙線研究室を入居させることにも尽力しました。

上：昭和 24 年撮影、1 号館 10 号室（理化学研究所蔵）
右：仁科芳雄（理化学研究所蔵）





7号室

ふだんは食堂として使用していたこの部屋には、宇宙線を観測する仁科型電離箱という宇宙線計が置かれ、宇宙線の正体

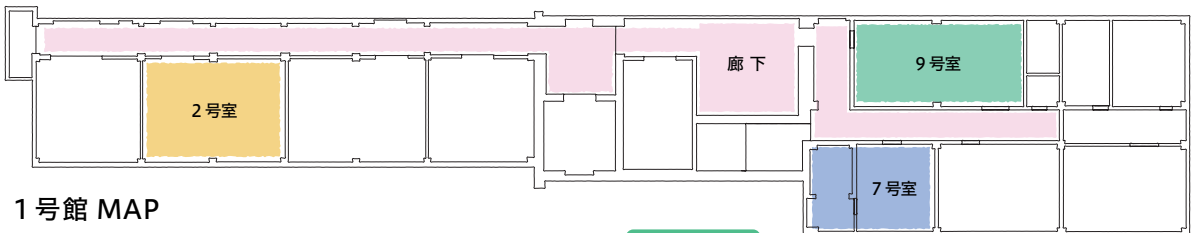
を知るため、毎日観測し得られたデータを分析する「連続観測」を行っていました。今でも部屋の奥には、観測スペースが残っています。

左：昭和24年撮影、仁科型で宇宙線を観測（理化学研究所蔵）

廊下

研究者たちはとても仲が良く、ときには卓球を行うなど自由な雰囲気のなかで研究を進めていました。

昭和24年撮影、卓球を楽しむ室員たち（理化学研究所蔵）



1号館 MAP

9号室

1960年代には、日本初のノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹博士もこの場所で研究を行っています。今でいうスーパーコンピュータの元祖ともいえる電子計算機を設置しました。

2号室

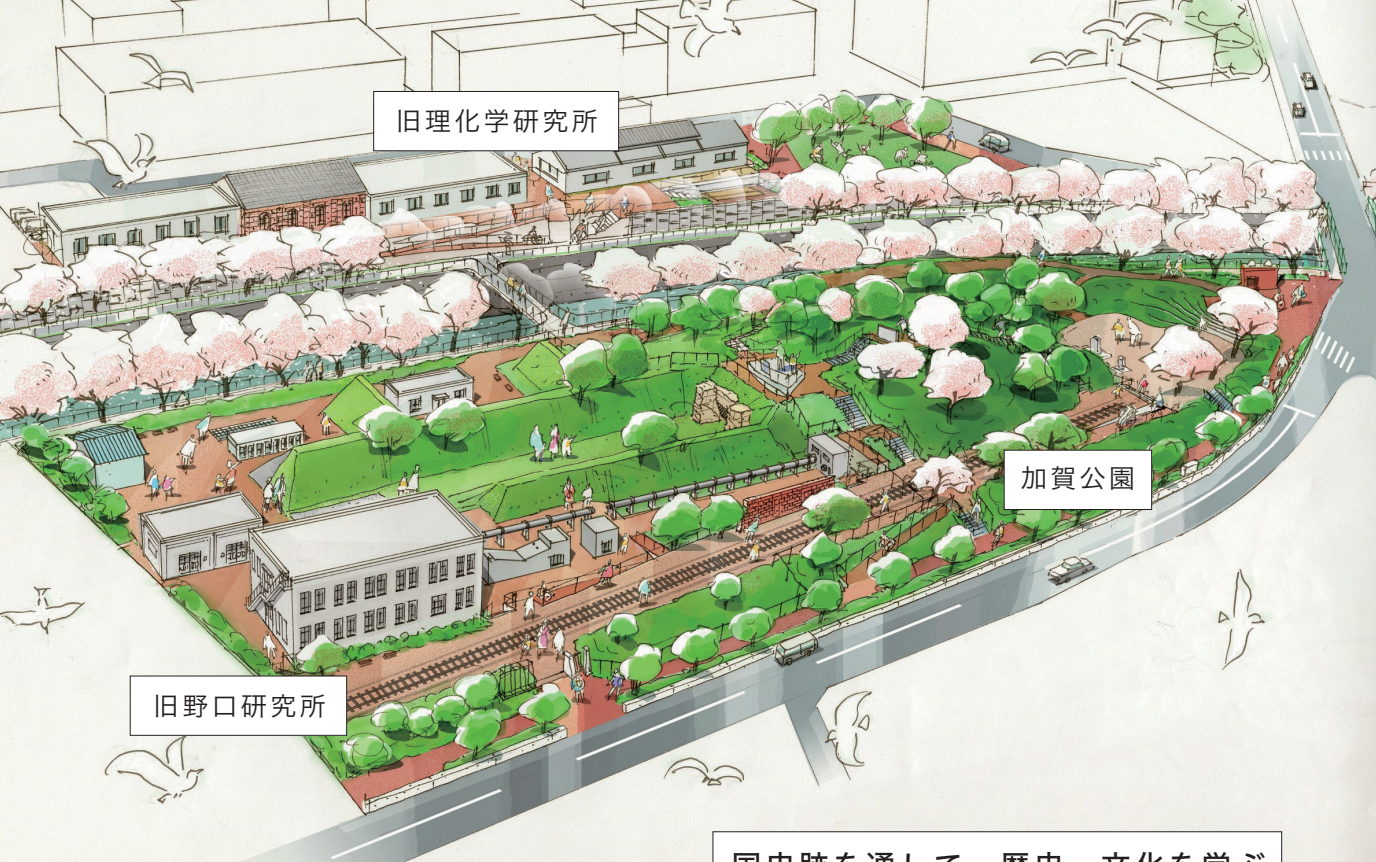
電子計算機を設置するために上げ床に改築したあとが今も残っています。



電子計算機の復元画像（日本大学生産工学部創生デザイン学科 中澤研究室制作）



昭和24年撮影、1号館9号室（本誌の制作に当たり、当写真を所蔵する方を捜索しましたが、確認することができませんでした。お心当たりのある方は、板橋区教育委員会までお知らせください）



国史跡を通して、歴史・文化を学ぶ

産業ミュージアム

板橋区では、史跡公園整備と歩調を合わせながら、旧理化学研究所板橋分所が使用した建造物をそのまま活用した「産業ミュージアム(仮称)」の整備を計画中です。理化学研究所研究員たちが宇宙線の連続観測をはじめとした基礎研究を行い、日本の科学技術を進歩させた足跡が数多く積み重なっているこの地は、区産業を発祥させた板橋の近代的なもののづくりの原点であることに加え、新たな産業を発展させるための科学技術との縁が極めて深い場所です。産業ミュージアムは、「区産業発祥の地」、「基礎研究の場」、「日本物理学界の中心的な場所」という歴史的価値を生かしつつ、未来の産業創造に向けた区産業の新たな挑戦に対する区民の共感を生み出し、関係する企業や関係機関の価値を高め、未来の区民生活への期待感を醸成していく施設となるよう検討し、令和 11年度中のオープンを目指します。

住所

東京都板橋区加賀一丁目 7 番・8 番

アクセス

- ・都営三田線「板橋区役所前」駅徒歩 15 分
- ・「新板橋」駅徒歩 10 分
- ・JR 埼京線「十条」駅徒歩 15 分
- ・国際興業バス「東板橋体育館入口」徒歩 5 分
[王 22 王子駅⇄板橋駅]

※現在整備中のため、加賀公園部分以外は非公開です。





光 学

光学技術発祥の地、板橋。

光学産業は、「ものづくりの板橋」の礎を築き、

高度な光学技術は、医療分野や宇宙開発など

新たな産業分野でも活用され、世界中からの支持を集める。



株式会社トプコン

住所 | 東京都板橋区蓮沼町75-1
URL | <https://www.topcon.co.jp>



光
学

執行役員 経営推進部本部 副長 広報・IR担当 平山貴昭さん

1932年に板橋の地で創業して以来、医(ヘルスケア)、食(農業)、住(建設)の事業領域において、さまざまな社会的課題解決を目指し、光学技術をベースとしたソリューションをグローバルに展開してきた株式会社トプコン。同社のDX(デジタルトランスフォーメーション)をベースとした数々の実績は、経産省から2023年にDX銘柄グランプリ、2024年にはDXプラチナ企業にも選定されている。「今後もDXを軸に世界中の人々の豊かな暮らしに貢献していきたい」と執行役員の平山貴昭さんはトプコンの未来を力強く語ってくれた。

光学技術と最先端技術を融合し 眼の病気の早期発見、治療に貢献

世界的な高齢化に伴い、眼科医が不足するという社会的課題が顕著になっています。当社のアイケア事業分野では、その課題を解決するべく、これまで培ってきた精密光学技術やさまざまなソリューションを用いた眼健診(スクリーニング)の仕組みを展開してきました。これにより、専門医による遠隔診断やAI診断を可能にするなど、眼の病気の早期発見・早期治療、医療効率の向上に貢献しています。



「DX銘柄グランプリ」に選定された 社会的課題解決ソリューション

DXという言葉が一般的になる前から、当社は社会的課題解決のためにデジタル技術を活用した数々のソリューションを展開。経産省が選定するDX銘柄において、銘柄選定企業の中から2023年には“デジタル時代を先導する企業”である「DXグランプリ」、2024年は“特に傑出した取組を継続している企業”として「プラチナ企業2024-2026」に選定されました。長年にわたる多様な取り組みが社会的に評価された結果と捉えております。

これまで、そしてこれからも 人々の豊かな暮らしに貢献

当社の経営理念は、「『医・食・住』に関する社会的課題を解決し、豊かな社会づくりに貢献すること」。これまでも、そしてこれからも世界中の人々の「健康」「豊かな食生活」「安心・安全な街づくり」を目指して、培ってきた技術をもとにさまざまなソリューションを使って、世界の人々の豊かな生活を実現するために挑戦し続けてまいります。



日本特殊光学樹脂株式会社

住所 | 東京都板橋区蓮根2-16-10
URL | <https://www.ntkj.co.jp>



光
学

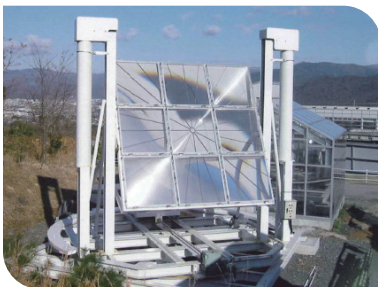


代表取締役 佐藤公一さん

1974年創業の日本特殊光学樹脂株式会社。自動車のテールランプ用のレンズや最近ではほとんど使われないオーバーヘッドプロジェクター(OHP)用のフレネルレンズなどの製品の金型およびレンズの成形からスタートした。同社の製品の多くは「人の目に触れるところで使われていない」と代表取締役の佐藤公一さんは笑うが、実は日本の道路を走る車のヘッドライトのほとんどは、同社のレンズを使って検査されているのだというから驚きだ。あくまでも「本物を創る」ことにこだわり挑戦し続ける同社の想いに迫った。

最大直径5メートル 世界最大級大型レンズ製造技術

弊社の技術には三つの大きな柱があります。一つ目が超精密金型加工。これは10ピコメートルという非常に細かな単位で加工機を制御して精密な型を作る技術です。二つ目は精密成形の技術。精密に作った金型の形状をそのまま樹脂に転写することでレンズとしての製品製造を行う技術です。そして三つ目。世界最大級といっても過言ではない最大直径5メートルの大型レンズの製造技術です。



自分たちが創った製品・技術に 誇りをもつために

弊社が大切にしているのは本物を創ることです。しかし会社や私がそれを言い続けても、なかなか実現することではありません。実は今、創業から50周年を迎えるにあたって社屋をリノベーションしています。新しくなったオフィスでは、従業員一人ひとりが自分たちの創り出したレンズが身の回りで使われている様子を見てほしい。そして自分たちの製品・技術に対して誇りをもって一人ひとりがものづくりに取り組んでほしいと思っています。

チャレンジ精神と安定した品質で 未来を切り開く

今後も弊社の三つの技術の柱を極めていくと同時に、社訓に掲げた「本物を創る-ファクトリー&ラボ」の言葉とおり、安定した品質の製品を世の中に送り出していく(ファクトリー)、これまで作ったことがない、チャレンジしたことがないような課題に果敢に挑み続けていく(ラボ)。そういうチャレンジ精神をもって、従業員一人ひとりが取り組んでいくことができればいいと思っています。



株式会社ルケオ

住所 | 東京都板橋区大山金井町30-9
URL | <https://www.luceo.co.jp>



生産部 林田大樹さん／技術開発部 市村鳳規さん



2024年に59期目を迎えた株式会社ルケオ。1966年の創業以来、光学メーカーの第一人者として光学技術発祥の地・板橋でものづくりを続けてきた。強みは設計・開発から製造、販売までを一貫して行えること。また顧客のさまざまなニーズに応じて小ロットで製品を提供できること。入社7年の生産部・林田大樹さんと6年の技術開発部・市村鳳規さんは、先輩たちの背中を追いかけて、「働きやすい職場からお客様のニーズに合った製品を積極的に生み出し社会に貢献する」というルケオの理念を体現する毎日だ。

「偏光板・波長板」「歪検査器」 「光学ユニット」が製品の三つの柱

顕微鏡や宇宙観測などに使われる偏光板・波長板、ガラスやプラスチック製品の歪を測定する歪検査器、多分野にわたる光学センサーや関連商品に利用される光学ユニットの三つが、当社製品の柱です(林田)。設計、開発から販売までを一貫して行う偏光板、波長板、歪検査器を自社ブランドとして扱っています。小ロット・多品種を主流としていますので、偏光板や波長板は1枚からオーダーメイドで承っています(市村)。

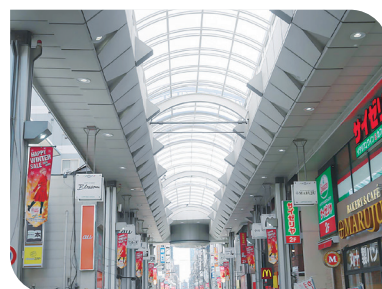


世界でオンリーワンの 製品・技術提供を目指す

世界でオンリーワンのルケオの製品、技術を提供していきたいです。先輩社員の技術を学びながら、電気などの設計にも挑戦していきたいと思っています(市村)。ルケオの技術を次世代に伝えながら、難しいことをできるだけ簡単に伝えるよう意識し、誰もがルケオの製品を作れるような環境づくりができればと考えています。そのことにより、ルケオの企業理念にもある働きやすい職場作りにつなげていきたいですね(林田)。

板橋の町中華で チャーハンの味比べ

昼休みに近くの商店街を散歩しながら板橋の町中華を探すのが好きです。いろいろなお店に入って、チャーハンの味比べをするのが楽しみです(林田)。本社の近くにあるハッピーロード商店街や遊座大山商店街にはおいしい飲食店がたくさんあります。そのなかでも特にラーメンなどの中華系のお店はとてもおいしくお勧めです(市村)。



「絵本のまち板橋」から世界へ 絵本作家・三浦太郎の挑戦

1999年に板橋区立美術館で開催された「イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」。

その出会いは三浦太郎さんが絵本作家として飛躍するきっかけとなりました。

「やるね板橋」では、思い出の板橋区立美術館で三浦太郎さんにインタビュー。

絵本作家としての活動やこだわりについて聞きました。





三浦太郎

Miura Taro

<https://www.taromiura.com>



1968 年愛知県生まれ。大阪芸術大学美術学科卒業。

イタリア・ボローニャ国際絵本原画展で入選を重ね、海外で絵本デビュー。

日本では、絵本『くつついた』（こぐま社）が 130 万部を超えるヒットとなった。

『ちいさなおうさま』（偕成社）で「産経児童出版文化賞 美術賞」受賞。

現在、女子美術大学特別招聘教授。2024 年で絵本作家デビュー 20 周年を迎えた。



板橋区立美術館

〒175-0092 東京都板橋区赤塚 5-34-27

三浦太郎と板橋区立美術館

板橋区とボローニャ市の交流の始まりは、1981 年の板橋区立美術館における最初の「イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」の開催。それ以来、板橋区とボローニャ市は絵本を通じて交流を深めてきました。三浦太郎さんの絵本づくりのきっかけも同館での「イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」の観覧であり、板橋区立美術館は三浦さんにとって絵本作家としてのスタート地点です。同館は 2022 年に「三浦太郎展 絵本とタブロー」を開催するなど、ゆかりの深い場所でもあります。

一枚のポスターを転機に絵本作家へ

1999年の夏、家の近くの図書館で見かけたポスターをきっかけに開催場所であった板橋区立美術館に出かけたのが、「イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」との出会いでした。誰でも応募できる展覧会であることを知り、帰りには応募要項を受け取って、翌2000年に初めて挑戦しました。このときは残念ながら落選しましたが、2001年、2回目の応募で入選を果たしました。そして2003年、スイスの出版社、La Joie De Lireから初めての絵本『Je suis...』の出版が決まったというわけです。



初めての絵本『Je suis...』(La Joie De Lire)

娘の誕生をきっかけに描き始めた「赤ちゃん絵本」

娘が誕生した2004年までは、僕は「自分の描きたい絵」や「アイデア」を基に絵本を描いていました。でもそれでは、赤ちゃんの娘には難しく理解できないだろうなと思ったんです。いろいろな絵本を娘に見せながら、「どんな絵本なら赤ちゃんが笑顔になるだろうか」と試行錯誤しながら行き着いたのが『くつついた』（こぐま社）です。そして2024年夏には50冊目の絵本『うみへ やまへ』（偕成社）を出版しました。これまでみなさんにお見せしたことのない三浦太郎を知っていただけのではないかと思います。



50冊目の絵本『うみへ やまへ』(偕成社)

絵本作家としてのこだわりと板橋の印刷製本業へエール

僕の絵本には、教訓や教育などの難しい要素はあまり入っていません。それより、絵本のおもしろさや絵本と一緒に過ごす時間が読む人の想い出として残ってくれたらいいなと思いながら描いています。赤ちゃんが初めて笑ったタイミングに僕の本があったらとても幸せです。そのためにもこれからもずっと「自分が選びたい」と思えるような絵本を作っていきたいと思っています。絵本を制作しているなかでいつも感じているのは、「日本の印刷や製本の技術は素晴らしい」ということ。絵本作家として、これからも板橋の印刷屋さんや製本屋さんと一緒に、素敵な作品・絵本を生み出していきたいですね。



三浦太郎さんの初めてのあかちゃん絵本『くつついた』（こぐま社）

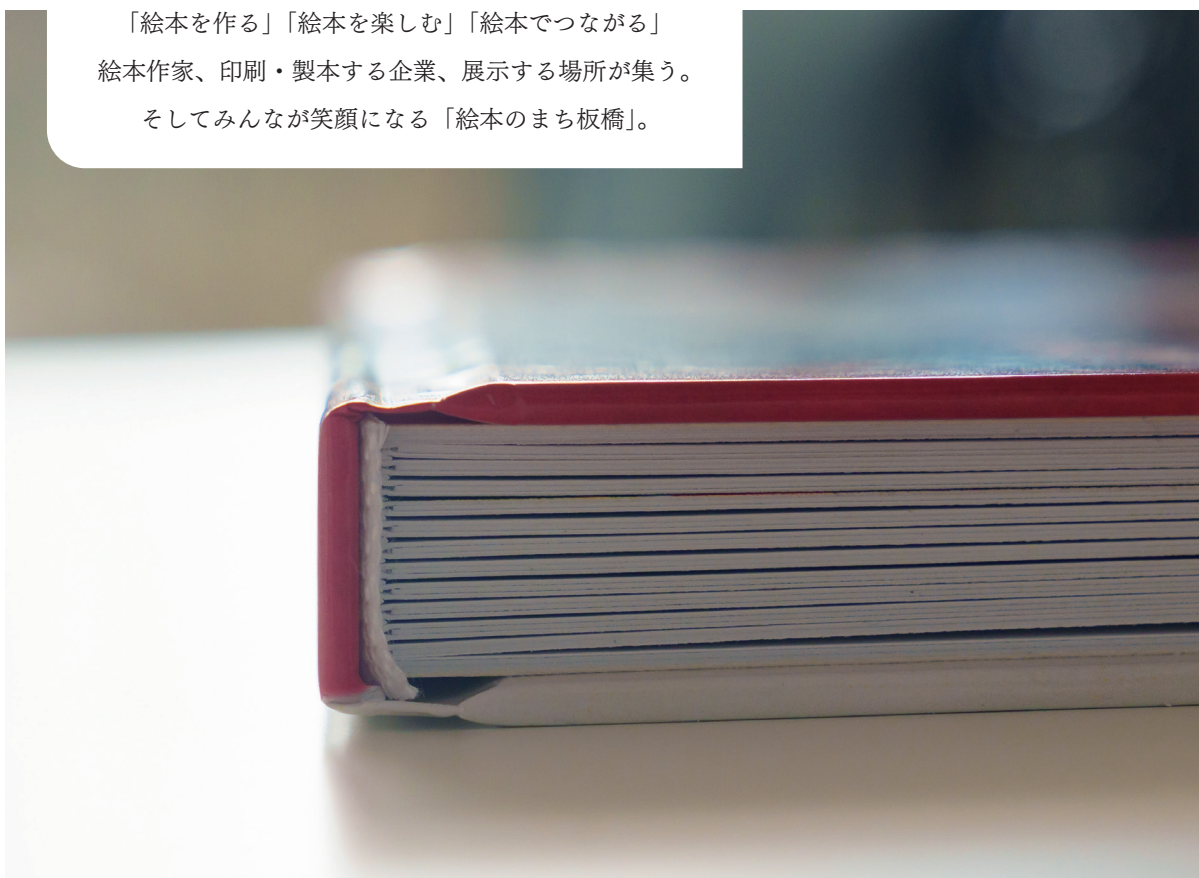
絵本作家 三浦太郎先生がアドバイス！ 「赤ちゃんに贈るファーストブック」

お母さんが楽しく読んでいることが伝わるのがファーストブックには大切だと思います。お母さんが「この絵いいな、赤ちゃんに読ませたいな」と感じる絵本をぜひ選んでほしいですね。お母さんが楽しそうに読んでいるときの声のトーンは赤ちゃんに伝わるので、きっと喜んでくれるはず。誰かが「この本がいい」と言っている絵本ではなく、実際に本屋さんや図書館で「私も読みたいな。赤ちゃんに読んであげたいな」「赤ちゃんもきっと読みたいだろうな」と思える本をぜひ選んでください。



絵 本

「絵本を作る」「絵本を楽しむ」「絵本でつながる」
絵本作家、印刷・製本する企業、展示する場所が集う。
そしてみんなが笑顔になる「絵本のまち板橋」。



大村製本株式会社

住所 | 東京都板橋区前野町3-43-7

URL | <https://www.omuraseihon.com>



絵
本

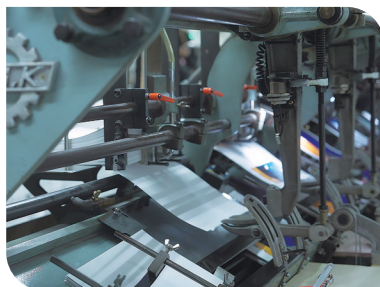


代表取締役社長 齋藤和明さん

大村製本のオフィスに一歩足を踏み入れると、壁一面の絵本。まだ小さかった子どもたちと一緒に読んだ当時を思い出し懐かしさでいっぱいになる。代表取締役社長の齋藤和明さんは、ITで埋め尽くされた私たちの日常にあっても「紙の可能性を探りながら、子どもたちの未来に1冊の本を届けたい」と話す。読む人が何も考えずに絵本の世界に没頭できるような製本を心がけているという。誰かと誰かをつないだり、理解を深め合ったり……。そのコミュニケーションづくりに一役買っている絵本を作っていることが何よりの誇りと顔をほころばせる。

どんな絵本も作ります どんな相談も断りません

お客様からの相談は本当にさまざまです。例えば「前に作った本の製本をすするところなくなっちゃった」「見たことないこんな本を作りたい」と出版社などからの相談もあれば、個人のお客様から「大切にしていた本が壊れてしまったのでなんとか直したい」など、1冊だけを直したり、子どもが「会社見学したい」と来たり……。当社は「相談できる製本屋」ですから、どんな相談でもお断りすることはありません。



「絵本のまち板橋」で 仕事をするメリットは？

板橋区の印刷関連業の製造出荷額は全国トップクラスを誇ります。当社は、印刷物を折って貼ってくるんで本に仕上げる製本業です。しかし、実はその前に紙を切断したり、加工したり、印刷したり、保管したり、絵本に関連する工程をこなすさまざまな会社がこの板橋区に集まっています。近隣で切磋琢磨しながら一貫して仕事ができることは励みにもなりますし、大きなメリットだと捉えています。

出来上がったときの喜びは格別 これからも挑戦し続ける

製本はすごい本を作ったときに注目されがちですが、読者がその物語に没頭できるような、当たり前前の製本を当たり前にする、製本が空気のような存在になることが私たち大村製本が目指すべきところだと思っています。誰もやったことない製本をやることはかなりリスクで難しい。でも挑戦して出来上がったときの喜びはとても大きいので、これからも挑戦し続けていきたいと思っています。



株式会社清美堂

住所 | 東京都板橋区三園 2-14-11
URL | <https://seibidou-ehon.com>



絵
本



代表取締役 秋田秀明さん

2024年10月で創業66年を迎えた株式会社清美堂。絵本のまち板橋で、ただひたすらに絵本の製本を行ってきた。その特徴はページが少ない紙の真ん中をミシンで縫い、チップボールという硬い芯材を用いた表紙で覆う「中ミシン綴じ」という製法だ。小さな子どもでも開きやすく、壊れにくい絵本は、絵本作家や出版社からも長く支持され続けているという。「世代を超えて読み継がれる絵本制作に関われることは誇り」と話す代表取締役の秋田秀明さんは、絵本づくりのその先をも見据えている。

SNSを通じて工場見学や ワークショップを告知

清美堂の絵本制作の現場を知っていただくために、絵本作家をお招きしたり、月に1回程度、一般の方向けの工場見学会を開催したりしています。また、夏休みには小学生や保護者を対象としたワークショップも行っています。絵本づくりに興味のある方は、XやInstagram等を通じてお知らせしていますので、ぜひ清美堂のページをフォローしていただければと思います。



クオリティーの高い絵本作りの ための資格取得・環境づくり

当社には7年以上の業務実績がないと取得できない国家資格「製本技能士1級」が6人、2年以上の2級が2人在籍しています。職業訓練校を卒業した社員が後輩に学んだことを伝え、社員全員が1級取得を目指しています。また当社にはパートから正社員になる女性が多いので、産休・育休制度を充実させるなど、女性社員が長く生き生きと働くための環境づくりにも注力しています。

絵本制作の経験を活かして 次のステージへ

まずはメイン事業のハードカバーの中ミシン製本において、よりクオリティーの高い製品を突き詰めていくこと。もう一つは、新しい雑貨文具メーカーとして発展していきたいと考えています。実は2024年6月に、「ju:tale(ジュテール)」というブランドを立ち上げ「世界一軽いノート」がコンセプトの“Airy note(エアリーノート)”を発表しました。今も絵本の製本で培った技術を活かし、新しい製品を鋭意製作中です。



恵友印刷株式会社

住所 | 東京都板橋区大原町46-2

URL | <https://www.keiyu-printing.jp>



代表取締役 萬上孝平さん

組版制作などの印刷の前工程から製版、印刷、加工製本までをワンストップで受注、ノンストップで製造する恵友印刷。従来のオフセット印刷機に加え、最新のデジタル印刷機を導入、多品種・小ロットなど多様化する顧客の需要に応える。「『絵本のまち板橋』をより盛り上げていきたい」と話す代表取締役の萬上孝平さん。絵本作家の発掘やオリジナル絵本のプロデュースなどにも積極的に取り組む毎日だ。

社員一人ひとりにとって 働きがいのある会社を目指して

当社は2022年に「第1回いたばし人と未来を創る会社賞」を受賞しました。この賞は、地域に根差し、人を育て、成長につながる努力をし続ける企業等が表彰されるものですが、当社のワークライフバランスの推進、福利厚生の整備など、社員が働きやすい環境を整え、社員一人ひとりにとっての働きがいのある会社を目指してきたことを評価していただいたものだと思っています。



子どもの可能性、夢を叶える オリジナルシール絵本「Petako」

2年前に自社企画として、お子様があこがれの職業を選び絵本のなかで主人公になれるようなストーリーのオリジナルのイラストシール絵本「Petako(ペタコ)」を商品化しました。第一弾は「しょうぼうしになったら」です。お子様の顔写真のシールとベースとなる絵本はお子様の可能性、夢を叶えます。この製品は、令和5年度「第21回板橋製品技術大賞」審査委員賞を受賞しました。

絵本作家・イラストレーター発掘 期待される版元としての可能性

板橋区がイタリア・ボローニャ市と友好都市協定を結んでいることをきっかけに、同市で開催される「ボローニャ・チルドレンズ・ブックフェア」に出かけ、絵本作家やイラストレーターの卵と呼ばれる若手と実際に会って交渉、出版企画を日本に持ち帰り、印刷、製本しています。これからは板橋区と協力しながら、印刷、製本だけでなく、自ら版元として多くの作家をプロデュースしていきたいと思っています。





DX・GX

持続可能な社会を実現するために。

DX（デジタルトランスフォーメーション）で
デジタル技術の活用による社会変革を、
GX（グリーントランスフォーメーション）で
環境保護と経済成長の両立を目指す。



株式会社ロビット

住所 | 東京都板橋区小豆沢 4-26-13
URL | <https://robit.co.jp>



代表取締役 新井雅海さん

ものづくりが好きな学生が集まって2014年に起業した株式会社ロビット。ある社員の「朝、起きられない」という悩みを解決すべく開発した“めざましカーテン mornin' plus”。スマホ上の専用アプリに設定した時間になると、カーテンレールに装着した“めざましカーテン mornin' plus”がカーテンを押し開く。「目の前の課題だけでなく、多くの人の悩みを解決する方法を常に探っている」という同社の理念そのものだ。「これからもハード、ソフト両面からお客様のDXをお手伝いしたい」と代表取締役・新井雅海さんは未来を見据える。

異なる技術を組み合わせたソリューション作り

当社は起業後、“めざましカーテン mornin' plus”を開発・発売しました。現在は、外観検査を自動化する“TESRAY”、野菜のカット等を自動化する“CUTR”という二つのソリューションをご提供しています。ハードウェアやソフトウェアのさまざまな技術を深く組み合わせたり、融合させたりすることで、もっとおもしろいことができるのではないかなという思いを根底に、ソリューションを作っています。

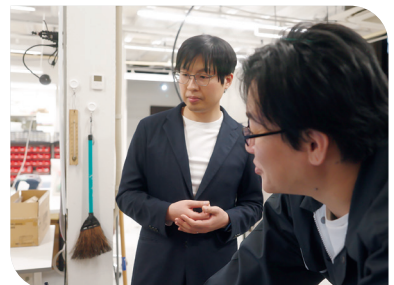


真の課題を見極め、 我々の技術で解決する

自分たちの悩みを、より一般化、本質をついたものに変換しソリューションを開発。現場に向向いて得られる情報から、皆様が本当に困っていること、世の中にとっての大きな課題を、我々の技術で解決させていただいています。外観検査をする“TESRAY”や野菜のカットなどを自動化する“CUTR”は、工場で働く方の過酷で単純な作業から解放、より付加価値の高い環境をご提供できているのではないかと思います。

技術・ソリューションの活用で DX実現を可能に

現在、外観検査や野菜を切るというソリューションを提供させていただいていますが、まだまだ我々の技術が応用できる範囲は残っていると思います。お客様の課題をしっかりと見極め、最適なDXは何かを考え、お手伝いする。また我々はものづくりを楽しむという観点で起業した会社ですから、常に新しい技術を取り入れながら、新しいソリューション・機能の開発も続けていきたいと考えています。



株式会社クレアビジョン

住所 | 東京都板橋区板橋 1-42-13 大佳板橋ビル 7 階・8 階
URL | <https://clairvision.co.jp>



営業本部 営業部長 能勢山健さん

2008年に板橋で創業した独立系システムインテグレーターである株式会社クレアビジョン。主に製造業の顧客を対象に、計測制御をキーワードにしたソフトウェアを提供している。「当社が開発するシステムは、業務効率化だけでなく、データを見える化することによって無駄を明確化、エネルギーの削減、省エネに貢献している」と営業部長の能勢山健さんは胸を張る。GX(グリーントランスフォーメーション)を牽引する企業が次々と生み出すシステム、取り組みに大きな期待が寄せられる。

システム上位から下位まで 自社開発できるのが強みの一つ

弊社の強みは主に3点です。一つ目は、クラウドからサーバーのソフト、PLC(製造業における設備や機器の制御装置)までなど、システムの上位から下位までを弊社エンジニアが開発できること。二つ目はハードウェアやセンサー、顧客の工場内電力に関する業務知識を踏まえたうえでシステム構築できること、三つ目は受託開発を基盤としながら同時にオリジナルパッケージソフト開発を進めていることです。



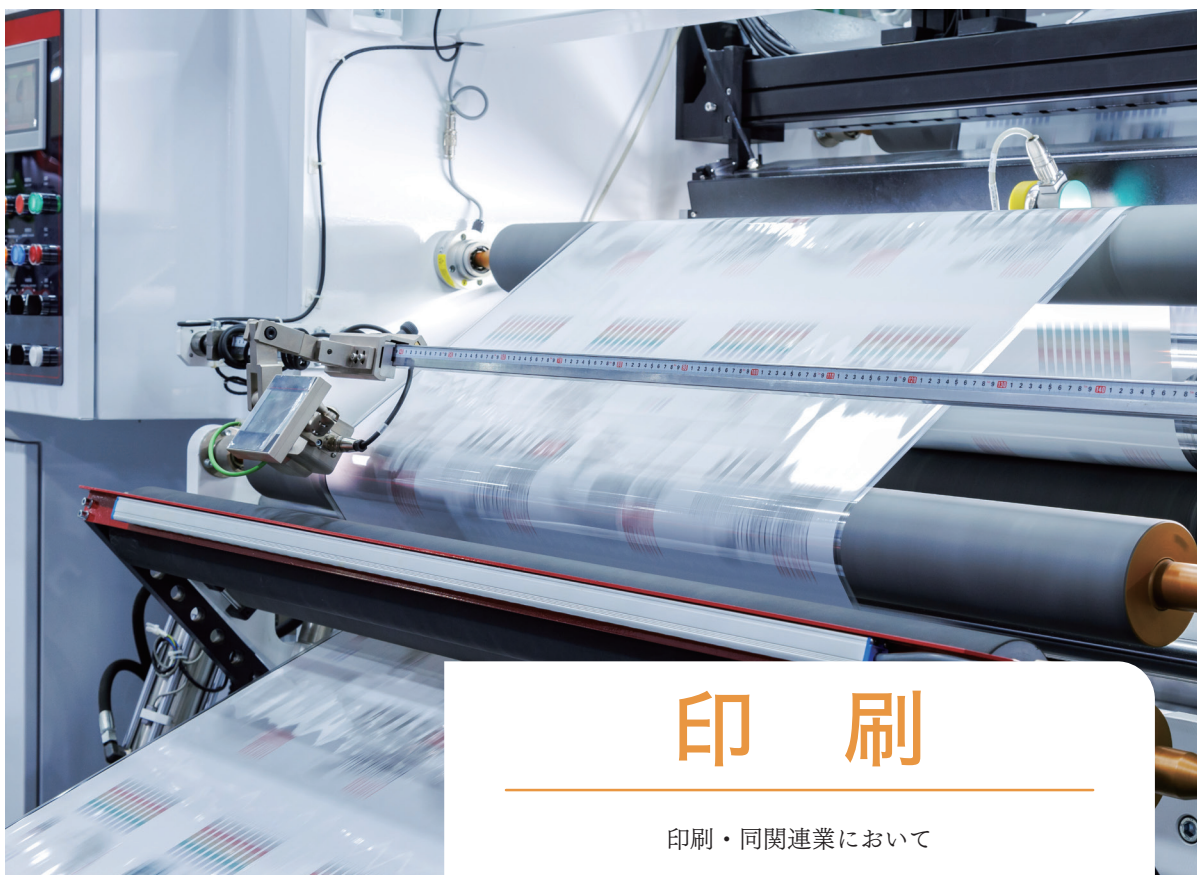
見える化・設備制御により エネルギー削減、省エネに貢献

当社システムを導入したことで、手動で行っていたデータ収集の工数が減ったという声をよくいただきます。またグラフやレイアウト図などデータの見せ方を工夫、「見える化」したことで、隠れていた「無駄」に対する取り組みを試みるきっかけにもなっているようです。実際に当社のシステムによって、設備を制御、コントロールすることで、使用エネルギーの削減、省エネに貢献できたというご報告もいただいています。

電力が不足する企業の情報と 供給可能企業をつなぐ仕組み

当社はこれまで、風力発電所の風車からデータを収集するソフトと通信、集計・表示するなど、発電所の見える化に貢献してきました。一方で電力会社内の需給バランスが崩れるなか、すでにさまざまな企業が自社の余った電力を電力会社に供給するなどに取り組んでいます。当社では新たに電力が不足している企業と各社が保有する発電機を使って電力を供給可能な企業をつなぐ仕組みづくりに取り組んでいきたいと考えています。





印刷

印刷・同関連業において
全国トップクラスの製造品出荷額等（※）を誇る板橋。

多くの印刷業者が集まる板橋では、
熟練の経験・知識と最新テクノロジーが融合し
高い付加価値を生み出している。

※令和3年度経済センサスより



株式会社技光堂

住所 | 東京都板橋区板橋 2-15-3
URL | <https://www.gikodo.co.jp>



印刷



執行役員 佐藤英則さん

板橋区に本社を構える株式会社技光堂。シルク印刷やシール印刷、インクジェット印刷などの印刷技術を用いて、主に産業・工業機器の操作パネルのスイッチシートなどを製造している。なかなかピンと来ないかもしれないが、実は日常生活で使用する洗濯機や炊飯器、電子レンジなどの家電製品の操作部分に貼付され、私たちの生活の利便性や安全性を見えないところで支えている。独自の特殊印刷を用いて開発した新製品「METALFACE」は多くの企業からも引き合いも増え、執行役員の佐藤英則さんはうれしい悲鳴をあげる。

金属のように見えるが光を通す 特許取得の「METALFACE」

弊社の強みは、金属調印刷や立体視印刷など、独自の印刷技術です。近年開発した「METALFACE」は、光や電波を透過、タッチ操作も可能な特性をもつ新素材の製品で、入退室管理システムのカードリーダーパネルとして量産されています。一見すると普通の金属パネルですが、人感センサーに反応すると「カードを当ててください」という操作案内や天気情報などが表示されるインターフェースを実現しています。



見えないところで 人の安全を守る印刷技術

当社の主力となる製品は、主に電気製品の背面に貼付されている注意・警告ラベルです。「手を挟む危険があります」「感電の恐れがあります」などの警告表示は、製品を使用する際の事故を未然に防ぎ、人々の安全を守る重要な役割を担うものだと考えています。人々の安全を守るために必要な製品だと自負しております。

顧客が満足いく製品を 作るためにチャレンジし続ける

当社は、社長のリーダーシップの下、チャレンジ精神を大切に、常に新しいことに挑戦し続けています。全くの0の状態から1に、お客様に満足いただける製品まで作り上げることができる開発力が当社の強みだと考えています。今後は、当社の印刷技術を最大限に活かした「METALFACE」をより広く市場に展開させるとともに、事業領域を他業種へも拡大し、中小企業から中堅企業への飛躍を目指してまいります。



株式会社オフセット岩村

住所 | 東京都板橋区新河岸 1-15-22
URL | <https://www.offiwa.com>

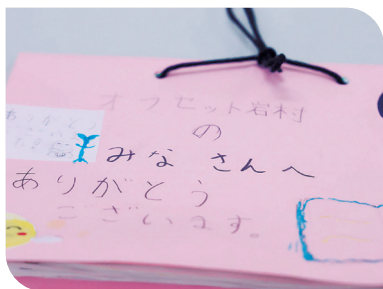


代表取締役 岩村貴成さん

大手、中小に限らず、多くの印刷・製本会社が集まる板橋区。その売上は、区内全産業の約3割に及び、「印刷・製本のまち」と称されている。今回紹介する株式会社オフセット岩村は、1980年の創業以来今日に至るまでその一翼を担って来た。自社のみならず、板橋区の印刷産業の発展に尽くす代表取締役岩村貴成さんは、CO₂排出軽減を意識するなど、現状に満足することなく印刷会社の未来をも見据えたさまざまな課題に果敢に取り組んでいる。デジタルツールを駆使した新しい印刷会社を視野に入れる岩村さんに話を聞いた。

地域に根ざし、愛される 印刷会社を目指して

当社は1980年に創業した印刷会社で、私は2代目の社長です。工場見学など地域の小中学生の受け入れも積極的に行うなど地域の皆さんから愛され地域に根ざした会社を目指しています。得意な分野はエンターテインメント領域ですから、街中のさまざまな場所で、当社が制作したパンフレットやチラシ、ポスターなどを見ていただいているのではないのでしょうか。

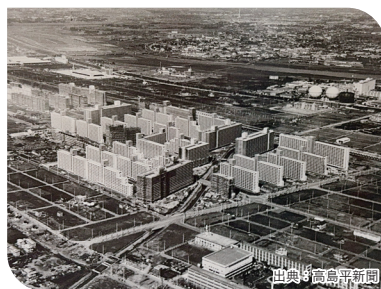


強みは高品質・短納期 最新印刷機械を設備

弊社は高品質・短納期の印刷物を得意としています。これまで培ってきた技術やノウハウを最大限に生かし、お客様にプラスアルファの価値をお届けできるように心がけています。例えば、品質管理装置が付いた最新印刷機械を活用することで、印刷の際、ゴミや汚れなどの不良品を納品させないようなシステムも組んでいます。また、板橋区に工場を構えることでCO₂をできる限り抑え、納品、環境にも配慮しています。

今もそのデザインが世界中から 注目される高島平団地

私が板橋区で1番好きな場所は、1972年から入居が始まった高島平団地です。私が生まれ育った場所でもあります。建設当時は東洋一のマンモス団地として注目され、入居者が殺到したと聞いています。今から約50年も前に、未来が想像できる街並みをコンセプトにデザインされました。今も変わらないそのデザインは、日本のみならず、世界中の各方面、たくさんの方から高い評価を得ています。





100年企業

守り続けてきた理念。常に世の中のニーズに応える挑戦。
伝統と革新の融合。それが100年企業たる所以。



菊池食品工業株式会社

住所 | 東京都板橋区大山東町9-9

URL | <https://www.kikuchi-shokuhin.co.jp>



100年企業

代表取締役会長 兼 最高経営責任者(CEO) 菊池幸さん

大正3年3月3日創業、2024年に111年を迎えた菊池食品工業株式会社。その歴史は食品会社、板橋区のなかでも群を抜く。始まりは今から100年以上前のこと。現・代表取締役会長兼最高経営責任者の菊池幸さんの祖父で創業者の菊池足真彦氏が、風邪をひいた子どもに、「安くても栄養価が高い」けれど「硬い」スルメイカをどうやって食べさせることができるかを試行錯誤、柔らかくて甘い「ノシイカ」が誕生したという。長い歴史のなかで食品製造販売会社としてのこだわりを菊池さんに聞いた。

日本初。女性や子どもにも好まれるノシイカを開発

当社は、価格は安いけれど硬いスルメイカを、工夫して柔らかく加工、開発した「ノシイカ」を主力商品として約70年間、事業を展開してきました。しかし近年、日本近海でのスルメイカ漁獲量減少に伴う価格高騰により、事業の転換を余儀なくされました。そこで、既存の製造設備を活用、昆布や小女子、アサリなどの佃煮や煮豆へと製品ラインナップを拡大。現在は佃煮と惣菜の煮豆を主力商品として、事業を展開しています。



大山東町を本社拠点に 埼玉、そして北海道へ

当社は、大山東町の線路脇で約80年にわたり工場の操業を続けてきました。しかし周辺地域の宅地化に伴い、製造時の音や匂い、煙突の煤(スス)などが近隣住民のかたにご迷惑をおかけしていること、また環境に対する影響なども考慮し、移転を決断いたしました。現在は本社を大山東町に置きつつ、生産拠点を埼玉県鶴ヶ島市と北海道七飯町に移し、地域との共生を図りながら事業を展開しています。

高齢化が進む時代に 長生きするための食品づくり

健康長寿のためには、「食」が重要なファクターであると認識しております。当社では、そのための「おいしさ」と「健康効果」両面を兼ね備えた食品を心がけ、お客様にご提供しています。これまでも「安いから」ではなく、「おいしいから」と買っていただけの商品づくりを目指してまいりました。これから高齢化が進む時代にあって、お客様に元気で長生きしていただける商品・食品づくりにこだわってまいります。



関東混合機工業株式会社

住所 | 東京都板橋区大原町3-12
URL | <https://kanto-mixer.co.jp>

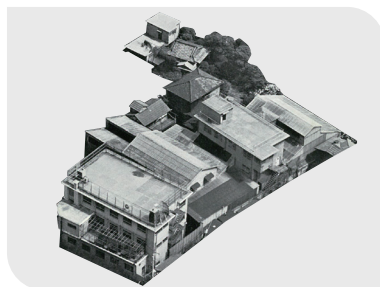
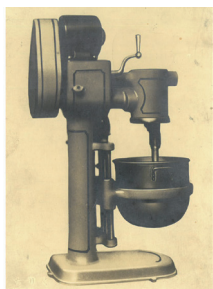


代表取締役社長 林純一さん

1918年創業という長い歴史をもつ関東混合機工業株式会社。昭和初期に開発した天津甘栗機が好評を得た同社は、その後、製パン・製菓を中心とした食品業界向けミキサーを製造するメーカーとして大きく成長を遂げた。「使う身になってのミキサー作り」を経営指針に掲げ、製品を販売するだけでなく、顧客との信頼関係を何より大切に、パートナーシップを大切にしながら共に成長する姿勢を重視していると代表取締役社長の林純一さんは話す。その顧客の課題解決に力を入れる姿勢は、顧客のみならず食品業界からも高い評価、信頼を集めている。

洋菓子のミキシング効率向上 時間短縮可能な機械を開発

当社の主力商品は、製パン・製菓を中心とした食品メーカー向けのミキサーです。創業時、甘栗機械、国産初のケーキミキサーの開発から始まってから100年以上経ちましたが、常にお客様の声に耳を傾け製品を開発していることは今も昔も変わりません。最近では洋菓子メーカー向けに、安全面や衛生面へのこだわりはもちろん、ミキシングの効率を向上、かつ時間も短縮できる、高いメリットを備えた機械を開発いたしました。



ものづくりの街「板橋」で これからもずっとものづくり

弊社の周辺には元々町工場がたくさんありましたが、最近ではマンションや家屋が増え、町の風景も大きく変わってきました。この板橋は、東京のなかにあって「ものづくり」の街として非常に栄えてきた場所です。弊社も創業から今に至るまでこの地でずっと「ものづくり」、商売を続けてまいりました。愛着のある「板橋」という地で、これからもずっと、「ものづくり」、会社を営んでまいりたいと思っています。

マーケットが縮小するなかで 市場シェア拡大が今後のテーマ

日本経済が成長するなか、今後、洋菓子は間違いなく日本で伸びていくと考えた創業者は、甘栗機械からのノウハウを生かして、洋菓子用のケーキミキサーを開発しました。それから100年以上が経った今、人口が減少し縮小に向かう日本のマーケットのなかにあって、あらゆるミキシングプロセスを開発してきた企業として、他社と差別化し、どう市場シェアを拡大していくかがこれからの課題です。



株式会社ハイキャスト

住所 | 東京都板橋区大山東町38-8
URL | <https://www.hicast.jp>



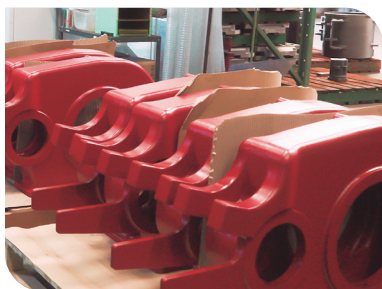
代表取締役 高橋健太郎さん

100年企業

株式会社ハイキャストは、1916年に板橋区大山の一画で創業した100年企業だ。鍋や釜などの日用品の鋳物づくりから始まったという。その後、工場近くで大蔵省専売公社の工場ができたことから、タバコ製造機の鋳物部品、産業用機械、機械向けの鋳物部品の製造へと舵を切っていったという。今ではその技術力、保証力の高さを見込まれて、さまざまな業界から重要保安部品製造の依頼が絶えない。100年続く企業の大切になっていることを代表取締役の高橋健太郎さんに聞いた。

技術力・管理力を強みに 重要保安部品を製作

当社の強みは技術力、そして製作した部品を保障する管理力です。また、多品種少量生産を得意としています。最近では作るのも、品質を保証するのも大変難しい重要保安部品といわれるような装置を作ることが増えてきました。そして何より弊社の最大の強みと私が考えているのは、長く紡がれてきたこれまでの経験を受け継ぎながらも、常に新しいことに果敢にチャレンジする若い社員たちだと思っています。



話し合い・認め合い・助け合う 「ハイキャストフィロソフィー」

弊社には社是から経営理念、行動指針を記載した「ハイキャストフィロソフィー」というものがあります。そのなかで私が特に大切に捉えているのは、先代から引き継いだ「和を大切にすること」です。簡単にいえば「仲良くしよう」となるのですが、仲良くすることは迎合とは違います。お互いに話し合って、認め合って、助け合う、そんな文化を作っていきたいと日々思っています。

額に汗して働いている人たちが 認められる世の中に

これからお客様の厳しい要求に真摯に向き合い、より技術力を高めていきたいと試行錯誤しています。また、当社の社員はもちろん、額に汗して働いている人たちが、日の目を見る、認められる世の中になってほしいと強く願っています。工場で働く人の仕事はとても大変ですが、それも踏まえて、楽しくものづくりをやれている会社があるということをとくさんの方に知っていただくことで、もっともっと良いものを作っていきたいですね。





スタートアップ

先進的なテクノロジーとアイデアで、新たな価値を創造する。
板橋の地で構築したビジネスモデルが今世界に羽ばたく。



株式会社ソラリス

住所 | 東京都板橋区東山町14-13
URL | <https://solaris-inc.com>

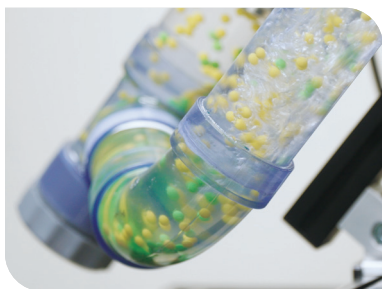


代表取締役CEO 梅田清さん

2017年、中央大学初めてのベンチャー企業として起業した株式会社ソラリス。AIやデジタル全盛の今の時代において、空気のみで動くアナログデバイスにこだわり開発を続けている。代表取締役CEOの梅田清さんは、「初めて人工筋肉で動くロボットを見たとき、空気のみで動くこのアナログデバイスがとても新しく感じた」と話す。主力商品であるミミズ型管内走行ロボット「Sooha®」は、令和6年度「第22回板橋製品技術大賞」最優秀賞を受賞するなど、同社の究極のアナログデバイスに寄せられる期待は大きい。

柔らかくしなやかに “One and Only” のソフトロボット

弊社のロボットのコア技術は、中央大学の研究成果に基づいて生み出された空気圧人工筋肉で、内部に特殊な構造をもっているのが特徴です。このゴム製のチューブは空気を入れると膨らんで短くなり、空気を抜くと元に戻ります。この不思議な動きを取り入れた柔らかくしなやかに動くソフトロボットは、世界中を探しても他にない弊社のワンアンドオンリーの技術を基に作られています。



板橋製品技術大賞最優秀賞受賞 「ミミズ型管内走行ロボット」

現在弊社が主に取り組んでいるロボットは二つ。人間の腸の動きを模倣して、いろいろなものを混ぜたり運んだりすることができる腸管型ポンプロボット「Zendo Drive®」と、従来の技術では侵入が難しかった細くて複雑な配管の深部にも入り、内部のコンディションを把握できるミミズ型管内走行ロボット「Sooha®」です。現在は、特にお客様からのご要望が多い「Sooha®」の事業立ち上げに注力中です。

ソフトロボットならソラリス 究極のアナログを極める

弊社はまだまだ生まれたばかりです。現在、多くの企業様と共同研究開発を行っていますが、そこで得た製品をそれぞれの業界で横展開することによって、より大きく成長していきたいと考えています。将来の目標は、このソフトロボットという未開拓のジャンルにおけるパイオニア企業になること。誰に聞いても「ソフトロボットといえばソラリス」と言ってもらえるような会社に成長していきたいと考えております。



スタートアップ企業が目指す「悲しい自動車事故の削減」

マーベルオートサービス株式会社

住所 | 東京都板橋区舟渡 1-15-15 クレエ浮間舟渡702

URL | <https://marvelas.net/index.html>

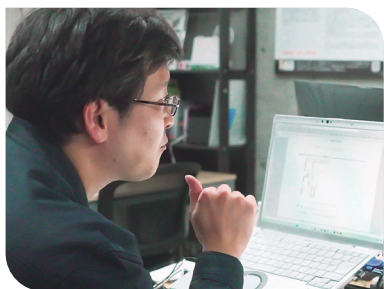


代表取締役 立花祥宏さん

2018年3月に創業、2024年で7年目を迎えたマーベルオートサービス株式会社。法人向けにドライブレコーダーの映像を活用した事故削減サービスの提供、フォークリフト用の安全機器の設計・製造・販売を手がけている。代表取締役の立花祥宏さんは、自動車業界の勤務経験から、悲しい自動車事故の削減に取り組む企業が少ないことに着目、その課題解決の必要性を感じて起業に至ったと言う。さまざまな困難に直面しても、次々と革新的なビジネスモデルを構築するスタートアップ企業の目指す先にあるものは？

誰が見ても評価は同じ 「自動車映像解析サービス」

自動車映像解析サービスは、誰が見ても同じ評価が得られるように評価のばらつきをなくす仕組みを構築しました。映像を基にドライバーの運転を分析、ドライブレコーダーで撮影された映像を基に、ドライバーの運転行動を詳細に調査。その行動の数や種類を分析することで、ドライバーが抱える事故リスクを評価します。ご利用いただいているお客様のほとんどは法人、そのうち8割が上場企業とそのグループ会社です。

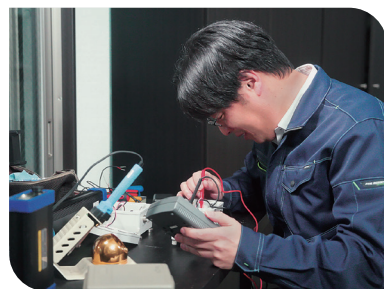


コロナ禍の自粛期間中に フォークリフトの安全機器を開発

フォークリフトサービスは、事故を未然に防ぐための安全機器開発を主としています。自動車の解析サービスは、車両が動かない限り発生しないサービスなので、コロナ禍の自粛により多くの企業が一斉に運行を停止、弊社も全く仕事がない状況が続きました。その間は、お客様からフォークリフトにおける作業事故の対策を講じたいというご要望があったこともあり、フォークリフトの機器開発を開始することができました。

安全教育はeラーニングへ 新商品開発にも挑戦

自動車事業に関しては、コロナを契機にお客様の安全運転教育の方法が大きく変化しました。集合教育の機会は大幅に減少し、eラーニングが主流となりつつあります。これらの変化に対応するべく、弊社もeラーニングに注力していく所存です。また、たくさんのお客様からのフォークリフトの多様な機器に関するご要望、ご相談に応える形で、年に2回程度のペースで新商品を開発していく予定です。



クロスメッド株式会社

住所 | 東京都板橋区坂下2-22-16-101
URL | <https://crossmed.jp>



代表取締役 藤井眞澄さん

スタートアップ

クロスメッド株式会社代表取締役の藤井眞澄さんは、長年携わってきた整形外科領域での経験から、「自分にしかできない医療従事者と患者の架け橋となる事業を立ち上げたい」という強い思いを抱いてきたという。構想から5年、2020年10月に満を持して起業、現在は、全国約4,600万人といわれるロコモティブシンドロームを予防するためのさまざまな事業を展開している。板橋に住んで33年、藤井さんの視線の先には日本、そして世界規模のロコモ予防が広がっている。

寝たきりにならないように ロコモ初期段階から予防する

最近の整形外科領域での一番の課題は「ロコモティブシンドローム(ロコモ、運動器症候群)」。

ロコモとは、加齢に伴う筋力の低下などにより、要介護や寝たきりになってしまうリスクの高い状態のこと。介護認定の要因の約37%が運動障害だといわれています。転倒や骨折、寝たきりの状態にならないためには、ロコモの初期段階からしっかり見守り予防する必要があると考え、私たちは事業を進めてきました。



画像提供：医療法人社団整秀会田辺整形外科医院



歩くことは健康のすべて アプリ「くるあ®」でサポート

弊社が開発した医療・介護施設用管理アプリ「くるあ®」は、運動機能や1日あたりの日常活動量のデータを共有することで、患者の健康増進を促進するというものです。

実は「くるあ®」を反対から読むと、「歩く」。歩くことは私たちの健康のすべてにつながっています。これからも「最後まで自分の足で歩けるライフの実現」を目指し、より地域医療連携を強化していきたいと考えています。

医師と共に患者を見守る 当社だからできる地域医療連携

地域医療連携は医師とコミュニケーションをとりながら患者を見守ることが重要です。だからこそ医療従事者と患者の間に立ち活動してきた当社の経験を十分に活かせると考えました。その第一歩として、医療機関を中心に、薬局や介護施設、整骨院、フィットネス施設などと協働し、当社が一番お世話になってきた成増を拠点に、将来的には高齢化社会が進む日本、世界に向けて当社の事業を発信することが今の目標です。



画像提供：医療法人社団整秀会田辺整形外科医院



環 境

世界に誇る最先端技術で省資源化、省エネルギー化を推進。

環境に配慮したモノづくりに取り組み、
世界中の環境リスクの低減をはかる。



株式会社太陽油化

住所 | 東京都板橋区三園2-12-2
URL | <https://www.taiyo-yuka.com>



専務取締役 石田陽平さん

環境

1963年、自動車から排出される廃油、使用済みのエンジンオイルのリサイクルからスタートした産業廃棄物処理業者のエキスパートである太陽油化。廃油や廃液、汚泥(おでい)など液状廃棄物に特化している企業は東京都において大変少ないという。最近では、廃棄物処理やリサイクルのみならず、処理時に出た「残渣(ごんさ)＝汚泥」を原料に、微生物植物活性剤の開発などリサイクルの一步先を行くアップサイクルにも取り組んでいる。汚泥処理で培った微生物利用のノウハウを活かし、社会・環境課題に挑戦する専務取締役の石田陽平さんに話を聞いた。

資源リサイクルから 一步先のアップサイクルへ

当社は、2015年に国連主導でSDGsが始まる遥か以前、敗戦後の日本において物資や資源が限られていた時代から、貴重なエネルギー源であったオイルや燃料など資源エネルギー循環を事業の柱としていました。そして今、SDGsの先駆者、東京23区で数少ない液状廃棄物処理業者として、リサイクルだけではなく、処理後の液状廃棄物を原料として別の商品に生まれ変わらせるアップサイクルに注力、資源循環の幅を広げています。



汚泥処理で培った微生物利用 ノウハウが農業を救う

当社は、汚泥処理を通じて長年蓄積してきた微生物利用のノウハウを活かして、植物活性剤『東京8(東京エイト)』を開発しました。実に1,500程の微生物が一つのコミュニティを形成する『東京8』を使用することで、土壌環境は劇的に変わり植物の成長が活性化されますから、農業分野においては作物の収穫量や品質が上がったり、病害虫に強くなったなど、さまざまな効果が期待できるようになります。

生まれ育った板橋 変わりゆく風景

私は板橋生まれの板橋育ちです。特に小学生の頃に、通学路にある砂利(じやり)の山で遊んだことはとてもいい思い出です。一方で、家の近くを流れる白子川には近隣の工場の排水が流れ込み、東京で2番目に汚れた川と言われていたことも覚えています。しかし最近は行政の取り組みなどにより、底が見えるほど水がきれいになり、魚が泳ぐ姿も見られるようになりました。



大和合金株式会社

住所 | 東京都板橋区前野町2-46-2
URL | <http://www.yamatogokin.co.jp>



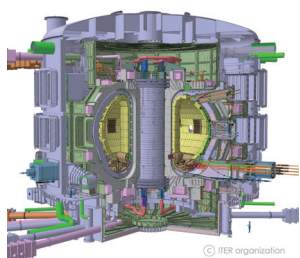
代表取締役社長 萩野源次郎さん

大和合金株式会社は、1941年の会社設立以来、銅合金に特化した材料の製造に、ただひたすら取り組んできた。銅合金とは、純銅にアルミや鉄など、さまざまな元素を微量加えることで機能を高めた材料。100種類以上にも及ぶ銅合金は、自動車から船、飛行機、ロケットなど多岐にわたって使われているという。「当社の強みは少量でもどんな特殊な銅合金でも0から作り上げられること。日・米・EUなど7つの国、地域が参加するITER(国際核融合実験炉[※])にも当社の銅合金は使用されている」と代表取締役社長の萩野源次郎さんは胸を張る。

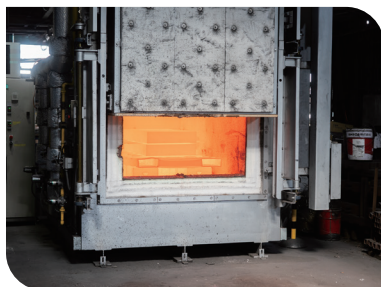
※環境負荷が少なく持続可能なエネルギー源の一つである核融合の実証実験

過酷な条件にも耐えうる 特殊銅合金部品はITERに採用！

当社の特殊銅合金はITER(国際核融合実験炉)の冷却に関わる重要な部品の一部として採用されています。過酷な使用条件に耐えうる製品にすべく長い時間をかけて試行錯誤を繰り返し出来上がったこの部品は、ダイバータを構成する冷却管の部品となりました。ここで編み出した技術はこれからの核融合にも生かされていきますし、ロケットや鉄道などの分野においても出し惜しみすることなく役立てていきたいと思っています。



資料提供 国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構



お客様の要望を叶えるために 私たちができること

当社は、金属を溶かしたり熱処理をしたりするための炉でガスや重油を燃やしていますから、当然CO₂も排出することになります。しかし排出するだけでなく、ペルーや中国などの植林活動で排出総量を減らす取り組みをしている都市ガスを利用したり、太陽光などの自然エネルギーを使った電力やカーボンオフセット付きのユニフォームを使用したりするなど、資源を使うだけでなく還元もできるように心がけています。

ダイバーシティの実現で イノベーションを起こし続ける

会社を経営するうえで大切にしていることは、社員が生き生きと何でも言い合えるような環境、雰囲気を作ることです。そのうえで、当社の強みでもある開発力を強化、イノベーションを起こし続けられるような組織にしたいと思っています。そのためにも、外国人を採用するなど、ダイバーシティ、つまりバックグラウンドや価値観の違う人たちが集い、おもしろいものが生み出せる環境を整えていきたいと考えています。





医 療

いつでも、誰もが、
安心して最適な医療を受けられるように
医療現場を支える。



イワツキ株式会社

住所 | 東京都板橋区志村 1-32-18
URL | <https://www.iwatsuki.co.jp>



代表取締役社長 岩月宏昌さん

イワツキ株式会社は、医療・介護施設、一般向けの消耗品を製造販売する老舗企業だ。「当社の製品はいざというときにはなければ困る商品ばかり」と話すのは代表取締役社長の岩月宏昌さん。この数年のコロナ禍において、マスクや医療従事者用のガウンや手袋など、イワツキ製の感染対策用品は、私たちの生活に欠かせないものとなった。まさに起きてはほしくない出来事だったが、同社の製品で救われた人も少なくないはずだ。

板橋製品技術大賞・ 最優秀賞受賞「ルナキャスト」

2023年、当社の「ルナキャスト」という商品が板橋区の製品技術大賞・最優秀賞を受賞しました。元々はドイツの製品で当社が輸入販売していたのですが、突然メーカーが製造を中止してしまったため、多くのお客様がお困りになっていました。その姿を見てなんとかできないものかと試行錯誤、約6年かけて実用化、名誉ある板橋製品技術大賞・最優秀賞を受賞できる商品にまで育てることができました。



困ったときになくては困る あって良かったという商品ばかり

当社の商品は、普通だったら誰もが使いたくない商品ばかりなんです。怪我をしなければガーゼも包帯もいらないですし、感染症が広がらなければマスクも医療用ガウンも必要ないかもしれません。でも、いざお困りになることが起きたときには、「ない」と困るし「あって」良かったと言っていただける、健康面で困ったときに必要になる商品ばかりを取り扱ってきましたし、この先もその方針は変わることはないと思います。

変化に対応しながら次の100年も 世のため人のためになる商品を

とはいえ、日々世の中は進歩しています。もちろん時代につれて必要なもの、商品は変わってくるわけです。そこに新しいテクノロジーを活用して、例えば「ルナキャスト」のような商品が登場してきます。つまりこれからも当社の根本である「世のため人のため」に必要な商品を扱うことは変えることなく、常に変化に対応していく姿勢をもちながら、次の100年に向かってまいります。





経営企画室 経営企画室長 技術士(機械部門) 高橋大輔さん

2025年に会社創業100年を迎える株式会社TOK。手のひらサイズの機械要素部品「メカニカルコアパーツ」の開発から製造、販売までを手掛ける老舗企業だ。「弊社で生産する製品の約75%はカスタマイズ製品です」と話すのは、経営企画室長の高橋大輔さん。自ら、高度な専門的応用能力をもつエンジニアにしか与えられない技術士という国家資格を有するこの道のエキスパートだ。また同社は、『東京都家庭と仕事の両立支援推進企業』『子育てサポート企業』の認定を受けるなど、働く環境の整備にも力を入れている。

一貫して製造から販売まで 見えぬところで活躍する3部品

弊社の主力製品はベアリング、クラッチ、ロータリーダンパーの三つ、これらの製造から販売までを一貫して行っています。ベアリングは、引き戸などを軽く滑らかに動かしやすくすることで使用者の負担を軽減。ワンウェイクラッチは、一方向のみ動力を伝達する機械要素部品で、OA機器の紙送り機構などに利用。ロータリーダンパーは、ピアノの鍵盤蓋などが閉まる際の衝撃緩和や指挟みを防止するための部品です。



お客様が望む動きを実現 私たちができることは？

最近、弊社の技術を医療機器に活用し、お客様のご要望の動きを実現できる製品を開発しています。例えば、医療用のウォーターベッドには、水中でもサビを防ぐステンレス化したベアリングを使用。手術用の枕を昇降させる装置にはクラッチの技術を応用して使っています。海外からの引き合いで特注設計したガンマ線滅菌に対応するワンウェイクラッチは、薬剤を定量注入するために開発された装置に活用いただいています。

医師のニーズに基づく 医療機器の開発を目指して

これまでは、医療機器向けの部品を単体でご提供することが多かったのですが、この数年は、医師のニーズに基づいた医療機器単体を最終製品として自社内で製作する動きがあります。現在、病院の協力の下、製品の臨床試験を進めていますが、このような医療業界と協業した製品が、弊社の製品群の一つの柱となっていけるよう、今後も設計・開発を重ねてまいりたいと考えております。





防災・安全

世界のあちこちで起こり得るさまざまな危険や予期せぬ自然災害から人々を守る。
板橋区では住民、自治体、そして企業が一丸となって、
迫り来る危険、災害に立ち向かう。





人事総務本部 総務部 部長 竹村俊行さん

「ポテトチップスといえば湖池屋」。消費者に広く支持されるこの企業は、日本で初めてポテトチップスの量産化に成功。他にも『カラムーチョ』等のスナック菓子や『湖池屋プライドポテト』等の高付加価値商品を開発、製造、販売する。最近では、5年保存可能な『KOIKEYA LONG LIFE SNACK』を開発、「いたばし防災+（プラス）プロジェクト」においては食を通じた地域の防災意識の向上に注力する。これまで培ってきたノウハウを、今後は「食」を通じてさまざまな課題の解決につなげていきたいと総務部部長の竹村俊行さんは話す。

のり塩、ポリンキーから 高付加価値商品まで

当社は1953年に創業、板橋区成増に本社を置くスナック菓子製造メーカーです。1962年に『ポテトチップスのり塩』を発売して以来、カラムーチョやスコーン、ポリンキーなどのブランド商品を次々と生み出してきました。1967年にはポテトチップスの量産化に成功、現在に至っています。最近では、『湖池屋プライドポテト』や『ピュアポテト』『湖池屋ストロング』などの高付加価値商品を販売、お客様にご好評をいただいています。



災害に遭った人がホッとできる 5年保存可能な商品を開発

当社は創業以来、国産のジャガイモだけを使用、おいしさや品質にとことんこだわしながら、ポテトチップスを開発、製造してきました。また、最近では、災害時に備えた製造から5年保存可能な『KOIKEYA LONG LIFE SNACK』を開発、販売しております。過酷な状況のなか被害に遭われた方がこの商品を食べることで少しでもホッとしたり、リラックスできたりする時間を過ごせるようにと願っています。

更なる発展を目指し ポテトチップスから「食」全体へ

本社のある板橋区は都会過ぎず、田舎でもなく、そのちょうど良さがとても心地良い、とても親しみのある街だと感じています。これからは、この板橋の地から、ポテトチップスなどのお菓子だけでなく、取り扱い範囲を「食」全体に広げ、お客様に一層支持していただける企業を目指していきたいと考えています。そのために社員一丸となって、さまざまな課題解決にも取り組んでまいります。



理研計器株式会社

住所 | 東京都板橋区小豆沢 2-7-6

URL | <https://www.rikenkeiki.co.jp>



人事総務部部长 高林格さん

理研計器株式会社は、産業用ガス検知警報器の開発から製造、販売、メンテナンスまでを一貫して行う企業だ。「日本のみならず世界の産業の発展においてもガスは欠かせない。次に挑戦するのは世界」と人事総務部部長の高林格さんが言うように、世界各国においても同社のガス検知器の需要は高まるばかりだ。1939年の創業以来、産業用ガス検知警報器メーカーとして培ってきた同社の技術や経験に大きな期待が寄せられている。

ガス検知警報器を通じて 危険から人々の安全を守る

当社は産業用ガス検知警報器のメーカーです。強みは研究・開発から、製造、販売、メンテナンスまでを一貫体制でお客様へご提供できることです。特にガスを検知するセンサーも自社で開発しております。そしてガスを使用されているすべての企業がお客様です。当社のガス検知警報器を通じて、それらの企業で働く人々をガスの危険から守るための安心・安全をお届けするのが私たちの役目です。



地域に根付いた企業として 板橋区の発展に貢献

当社は1939年の創業以来、この板橋の地で営業してまいりました。その間、地域に根付いた形で、地域の住民の方々や他企業の皆さまとコミュニケーションをとりながら、友好的な関係を築けており、共に板橋区の発展に貢献してこられたのではないかと考えております。また、会社に近い志村坂上駅周辺の飲食店などでは、懇親会などで社員同士がワイワイとコミュニケーションをとっている姿を見かけることもありますね。

国内はもちろん海外においても 人々の安心・安全に貢献

当社は国内における産業用ガス検知警報器のリーディングカンパニーです。これまでも「人々が安心して働ける環境づくり」を経営理念として、国内の産業の安全を守ってきました。これからは国内だけでなく海外にも進出、グローバルな視点で人々の安心・安全を提供、貢献できるような会社で成長していきたいと考えています。



株式会社志村製函所

住所 | 東京都板橋区志村 1-19-12
URL | <https://shimura-seikan.co.jp>



スマートプリント課 河野知也さん

1955年創業以来、板橋区の企業を中心に段ボールを製造、販売する株式会社志村製函所。実は段ボールのリサイクル率は96%以上という再生可能な資材。つまり使用すること自体が地球環境に優しいSDGsへ貢献することになる。ダンボールといって思い浮かぶのは、引っ越しなどで使う箱。しかしデジタル印刷機を導入、これまでの設計力にデザイン力が加わったことで、「使うだけでなく生活をカラフルに彩る段ボールの制作が可能になった」と、スマートプリント課の河野知也さんは胸を張る。

デザイン力と設計力を活かして 顧客のニーズに応える

2023年、段ボールにフルカラーで直接印刷できるデジタル印刷機を導入しました。その強みと当社のもつ印刷技術やデザイン力、設計力をかけ合わせ、お客様のニーズに合わせて、箱以外の段ボール製品をご提案しています。カラフルな印刷ができるので、例えば、展示会用の壁面のディスプレイを作ったり、クリスマスツリーを作ったりなど、従来とは違った用途、製品などがご提供できるようになりました。



災害に備え板橋区と 協定を結んだ段ボールベッド

数年前から作成している段ボールのベッドは、板橋区と災害協定を結んでいます。段ボールベッドは、東日本大震災をきっかけに注目を集めるようになり、さまざまな商品が作られるようになりました。当社では、担当者がお客様の使用方法や保管方法、保管場所などを細かくヒアリングした結果、段ボールでありながらコンパクトなベッドを開発、販売しております。ここでも段ボールのさまざまな可能性を感じました。

四角い箱以外の 笑顔になれる楽しい製品を

2023年に、クラウドファンディングで販売した『名画パネルGARO』は、本物の絵画と遜色のない色、油絵の凹凸を再現。「いたばし産業見本市」に展示したカラフルな段ボール製什器『組立Wall』は、見る人全てが笑顔になれることを念頭に、これまで積み上げてきた設計力とデザイン力、デジタル印刷機を駆使して作りました。四角い箱以外のダンボールでできる楽しい、みんなを笑顔にする製品をどんどん作っていきたいと思っています。





暮らし

「暮らしやすいが、叶うまち」いたばし。
板橋区には、住む人を笑顔にするおいしいもの、
毎日の暮らしを豊かにする商品、
そしておもてなしの心にあふれるサービスがある。



株式会社タニタ

住所 | 東京都板橋区前野町1-14-2

URL | <https://www.tanita.co.jp>



取締役 長澤淳也さん

2024年1月、設立80周年を迎えた株式会社タニタ。体重計や体組成計、歩数計などの機器を製造している。体重計を最初に作ったのは1959年。約65年の実績をもつ。また最近は、ヘルシーな食を提供する「タニタ食堂」や「タニタカフェ」、女性向けフィットネスサービス「タニタフィツミー」など健康サービスも提供している。取締役の長澤淳也さんが健康を“はかる”機器から健康を“つくる”サービスへと事業領域を広げるタニタの目指す「健康づくり」について熱く語った。

赤ちゃんから高齢者まで ニーズに寄り添った商品を目指す

当社は、あらゆる立場のお客様それぞれのニーズに寄り添った商品を作ることがを心がけています。脚の衰えが気になる中高年の方むけに足腰の健康度をはかる脚点(脚部筋肉量点数)を判定する商品や、目の不自由な方にも使用いただける測定値を読み上げる体組成計、赤ちゃんの授乳量をはかれる体重計など、きめ細やかな商品を展開しています。



地域住民との交流を大切に 30年続くふれあい広場健康祭り

当社には「変化を大切に同じところにとどまらない。前の年より一つでもいいから変化をつけよう、改善しよう」という文化が根付いています。また、本社がある板橋の地域貢献や住民との交流をととても大切にしており、30年にわたって毎年敷地内で行っている「ふれあい広場健康祭り」には、たくさんの住民の方が模擬店やクイズなどを楽しみに参加してくださっています。

健康習慣を続けるための 仕組みやサービスを目指して

今後さらに、機器はもちろん測定データ管理アプリの提供や公式ウェブサイトでの情報提供にも力を入れていきます。お客様一人ひとりのニーズに応じることで、健康習慣を維持するのが苦手な方でも、健康づくりに取り組めるようサポートしていきたいと考えています。また、国内のみならず、海外への展開も視野に入れてまいります。



株式会社マルジュー

住所 | 東京都板橋区大山町5-11

URL | <https://maruju.com>



常務取締役 西野慎さん

東武東上線大山駅の南口改札を出ると、どこからか漂ってくるおいしそうなパンの匂い……。その先にあるのはマルジュー大山本店だ。「1951年に、丸十ぱん店から暖簾分けし創業したのが現在のマルジューです」と話すのは、常務取締役の西野慎さん。それから73年、仲宿店からスタートしたマルジューは、大山本店、板橋駅前店の3店舗となり、「コッペパンの元祖」丸十パンから引き継いだコッペパンシリーズ、カレーパンを始めとする焼きたてにこだわったおいしいパンは、地域の人から愛され続けている。

店頭に並ぶパン

出来たて、焼きたて、揚げたて

弊社の経営理念である「食で喜びを作り、食で幸せを提供する」をモットーに、お客様のご意見に真摯に耳を傾けながら、常においしいパンをご提供できるように、新しいメニューを開発、作り続けています。特に出来たて、焼きたて、揚げたてにこだわり、店頭には常時100種類以上のパンが並んでいます。お気に入りのパンの焼きあがり時刻を狙ってご来店くださるお客様も少なくありません。



カレーパンもクリームパンも 人気商品の変わらぬこだわり

マルジューで人気第1位を誇る「コク旨マルジューカレーパン」。オリジナル配合のカレーは毎日、店舗の厨房で仕込んでいます。「カレーパングランプリ2024」の焼きカレーパン部門では『ごろごろシーフード焼きチーズカレーパン』が最高金賞、揚げカレーパン部門では『コク旨マルジューカレーパン』が金賞を受賞いたしました。これも応援してくださっているお客様のおかげと感謝しております。

これまで支えてくれた 板橋の地とお客様のために

板橋宿は、江戸期には中山道の最初の宿場町として賑わったそうです。この情緒豊かな場所で73年もの間営業を続けて来られたのは、地域のお客様のおかげです。これからも、大山本店を始めとする現店舗をブラッシュアップしながら、社員教育にも力を入れ、新たな店舗の開店を目指します。と同時に、これまで支えてくださった板橋、そしてお客様のためにも、さまざまな地域貢献をしていきたいと考えております。





パティスリー「クリオロ」シェフ サントス・アントワヌさん／クリエイティブディレクター 岡田愛さん

『クリオロ』はフランス人パティシエであるサントス・アントワヌさんの人気パティスリー。取材当日も、店のシャッターが開くと同時に、目当てのケーキやチョコレートを求めてたくさんの客が押し寄せていた。フランス人独特のセンスに、日本が大好きなシェフの繊細な感覚を融合させたオリジナルスイーツは大人気だ。お菓子を考えるのはサントスさん。クリエイティブを主導するのは妻の岡田愛さん。「半分くらいはもう日本人」と話すチャームिंगなサントスさんと彼を支える愛さん、二人の夢はまだまだ広がる。

世界大会で優勝した 「ガイア」と「ニルヴァナ」

日本に来て30年。日本とフランスは考え方も食べ物も違うので、来日当初は苦労しました。でも今はすっかり慣れて半分くらいは日本人です。子どもにも年配の方にも喜んでいただけるようなケーキを毎日作っています。日本で開催された世界パティスリー大会で優勝したバニラのムースとキャラメルクリームを使った「ガイア」とブラックベリーとチョコレートを使った「ニルヴァナ」が私のオススメです。(サントス)



サントス・アントワヌが作る 時代に合わせたスイーツ

当店は「時代に合ったおいしいもので幸せに」を経営理念に、今の時代に合わせたスイーツを販売しています。昔の甘くて濃厚なケーキに比べると、最近は甘さ控えめの口当たりの軽いケーキが好まれます。SNSでよく紹介していただく「幻のチーズケーキ」も時代に合わせて少しずつ味や食感を変えてきました。だから多くの皆さんに支持していただけているのだと思います。(サントス、愛)

スタッフ一人ひとりが 主役になれる店を目指して

現在は、小竹向原の本店、中目黒や麻布台ヒルズの実店舗の他に、オンラインショップも展開しています。ここ小竹向原店では、ケーキや焼き菓子以外にもパンやワイン、食材などの「おいしいもの」も取り扱っています。今後は、商品や仕事の進め方を安定させ、創業者である「サントス・アントワヌ」の意志をしっかり受け継ぎながら、スタッフ一人ひとりが主役になって店舗を盛り上げていきたいですね。(愛)



うつぼや池田食品株式会社

住所 | 東京都板橋区新河岸1-6-7
URL | <https://www.utsuboya.jp>



代表取締役 池田武文さん

1934年の創業当時は、蕎麦屋にかつおぶしを削って卸していたといううつぼや池田食品株式会社。しかし時代の流れと共に、かつおぶしだけでなく煮干し、昆布、しいたけなど料理の出汁に使う原材料も変化。併せて提供形態も粉碎したり、パックにしたりと、製造、販売する商品も多様化、販売先も多岐にわたる。そのために必要なことは原材料に対する目利き。納入先は大手食品工場から町の飲食店まで。「皆さんもきっとどこかで私たちの製品を一度は口にしているはず」と、代表取締役の池田武文さんは話す。

消費者の要望にすぐに応える 対応力が何よりの強み

お客様のニーズやウォンツに対してきめ細やかに対応するためには、原材料の仕入れに対する目利きが重要だと考えております。当社の工場は、自社工場としては東京都で最大規模、また板橋区内に構えているという地の利もありますから、営業が持ち帰ったお客様、消費者からのご意見、ご要望にすぐにお応えすることができます。その対応力が当社の何よりの強みだと自負しております。



暑い日の素麺にはかつお節 料理や季節により出汁を変える

出汁は本当にたくさん種類がありますが、基本はかつお出汁でしょうか。できれば料理や季節によって出汁を変えることをお勧めします。例えば、暑い日食べる素麺にはかつお出汁が合いますし、寒い時期の温かい鍋やそば、うどんにはサバ節をつかうとおいしいですよ。またラーメンの出汁には煮干しを使うことで、よりおいしさが増すと思います。みなさんもぜひいろいろな出汁を試してみてください。

業務拡大の目的は 仕入れ安定と働く人の環境整備

今後は、仕入れの強化、製造の丁寧さ、在庫の管理、販売管理、営業すべてにおいて、奥深く、よりレベルアップしてがんばっていきたいと思っています。また、さらなる業務拡大を目指します。これは単に売り上げを考えての拡大が目的ではありません。業務拡大することによって、仕入れを安定させ、当社の業務に携わるすべての人々が安心して働ける環境を整え、安定を生み出してまいります。



掲載企業一覧

(五十音順、「株式会社」などの法人組織名は除く)

イワツキ株式会社	36
うつぼや池田食品株式会社	46
エコール・クリオロ株式会社	45
大村製本株式会社	15
株式会社オフセット岩村	23
関東混合機工業株式会社	26
菊池食品工業株式会社	25
株式会社技光堂	22
株式会社クレアビジョン	20
クロスメッド株式会社	31
恵友印刷株式会社	17
株式会社湖池屋	39
株式会社志村製函所	41
株式会社清美堂	16
株式会社ソラリス	29
株式会社太陽油化	33
株式会社タニタ	43
株式会社TOK	37
株式会社トプコン	08
日本特殊光学樹脂株式会社	09
株式会社ハイキャスト	27
株式会社マルジュ	44
マーベルオートサービス株式会社	30
大和合金株式会社	34
理研計器株式会社	40
株式会社ルケオ	10
株式会社ロビット	19



記事の内容は取材当時の情報であり、現在と異なる場合があります

